



カチオン系下地調整材
【再乳化形粉末樹脂混入タイプ】

NPカチオン

施工要領書

【改定】2023 年 8 月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

目次

1. 使用材料および調合

2. 床面補修の施工方法

- 2. 1 旧仕上材の除去
- 2. 2 下地処理、清掃
- 2. 3 材料の混練り
- 2. 4 塗り付け
- 2. 5 養生

3. 壁面補修の施工方法

- 3. 1 旧仕上材の除去
- 3. 2 下地処理、清掃
- 3. 3 材料の混練り
- 3. 4 塗り付け
- 3. 5 養生

4. 屋上防水下地調整の施工方法

- 4. 1 旧防水層の除去
- 4. 2 下地処理、清掃
- 4. 3 材料の混練り
- 4. 4 塗り付け
- 4. 5 養生

施工上の注意

1. 使用材料および調合

【 使用材料 】

使用材料	適用部位	適用仕上材	施工可能面積
NP カチオン	内・外壁 内・外床 天井	仕上塗材 塗料 塗床 等	約 15 m ² (塗厚 1 mmの場合)

使用材料		規格等
吸水調整材	NP シーラック	JIS A 6203 規格適合品

【 調合 / NP カチオン 】

仕様	標準塗り厚	使用材料	清水
こて仕様	1～3 mm	NP カチオン 粉体 20kg	5.4 ～5.8 ℓ
ローラー・ 刷毛仕様	0.5 mm	NP カチオン 粉体 20kg	8.0 ℓ

【 調合 / NP シーラック ※5 倍希釈液 】

使用材料	荷姿	原液	清水
NP シーラック	18 kg ペール缶	1 (18 kg)	4 (約 72 ℓ)

2. 床面補修の施工方法

床面の補修に適用する際の施工フローを図 1 に示す。

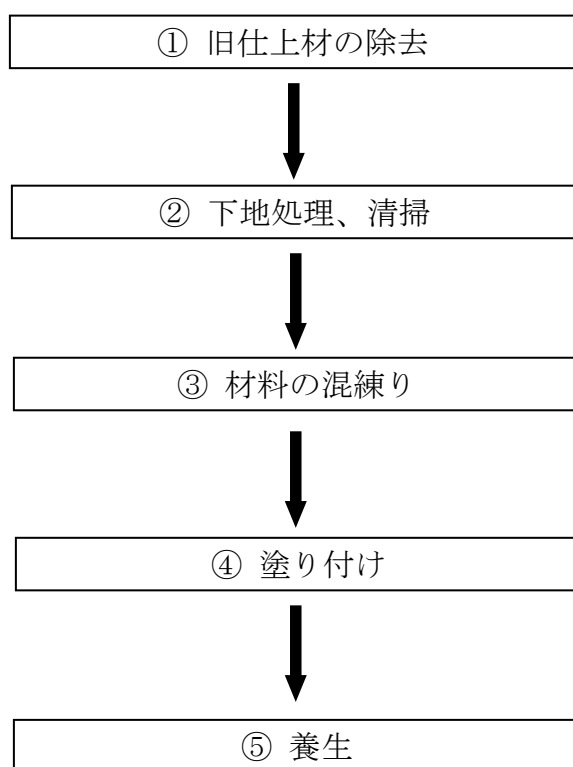


図 1. 床面補修の施工フロー

2. 1 旧仕上材の除去

仕上材が長尺シート、P タイル、タイルカーペット等の場合は、スクレーパーなどにより除去を行い、残存する接着剤については、指で簡単にはがせる程度のものは、ディスクサンダーなどにより完全に除去する。塗り床、タイルについても、浮き部や脆弱部分がある場合は完全に除去する。

2. 2 下地処理、清掃

施工面に汚れや脂分が付着している場合は、ワイヤブラシや溶剤で除去し健全な下地とする。また、吸水が激しい下地へ施工する場合は、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布する。

3 mm以上の段差や不陸がある場合は、事前に付け送りをを行う。その場合、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布（標準塗布量 0.15kg/m²）する。次工程までの工程間間隔は、塗布した NP シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

付け送りは、厚さに応じて表 1 に示す下地調整材を使用することを推奨する。

表 1. 下地調整材一覧

推奨製品	塗り厚
NP ステージ、NP アツヌリ	0～15 mm(ステージ)、0.5～20 mm(アツヌリ)
NP ハイパー20、NP ハイパー30	1～5 mm(ハイパ [°] - 20)、1～15 mm(ハイパ [°] - 30)
NP ハイパー II、NP Z アップ II	5～10 mm
NP メガモルハード	5～15 mm (欠損部が 0.3 m ² 以下の場合は 5～60 mm)
NP フィニッシュフロア F	3～15 mm

2. 3 材料の混練り

所定の水を容器に入れ、NP カチオンを徐々に加えながらハンドミキサー（回転数 1,000rpm 以上）等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜる。尚、強度低下の原因となるので、規定水量（こて仕様の場合は 5.4～5.8 l/袋、ローラー・刷毛仕様の場合は 8.0 l/袋）を厳守する。

2. 4 塗り付け

コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付ける。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練足しおよび水を加えての練り戻しは行わない。

※NP カチオンの上から溶剤系シーラー、溶剤系仕上材を施工する場合は、必ずこて仕様で使用し、最低塗厚 2 mmを確保する。

※旧仕上材がタイルの場合は、NP カチオンを目地部にコテ圧をかけて擦り込むように充填し、直後に NP カチオンを全面に塗布する。

また、その上から新しくタイルを張る場合は(タイルオンタイル)、NP カチオンの仕上げは適度に鰻波が残る程度か木ゴテ押えとし、金ゴテ押えのような平滑な仕上げは避ける。

2. 5 養生

施工後は、強風や強い雨・雪、直射日光にさらされないように、シート養生等を万全に行う。通風や直射日光等により塗り付け面の乾燥が激しい場合は、塗り付け翌日以降に散水養生を行う。

※仕上材までの養生期間は通常 5 日、冬期 10 日以上とする。

3. 壁面補修の施工方法

壁面の補修に適用する際の施工フローを図 2 に示す。

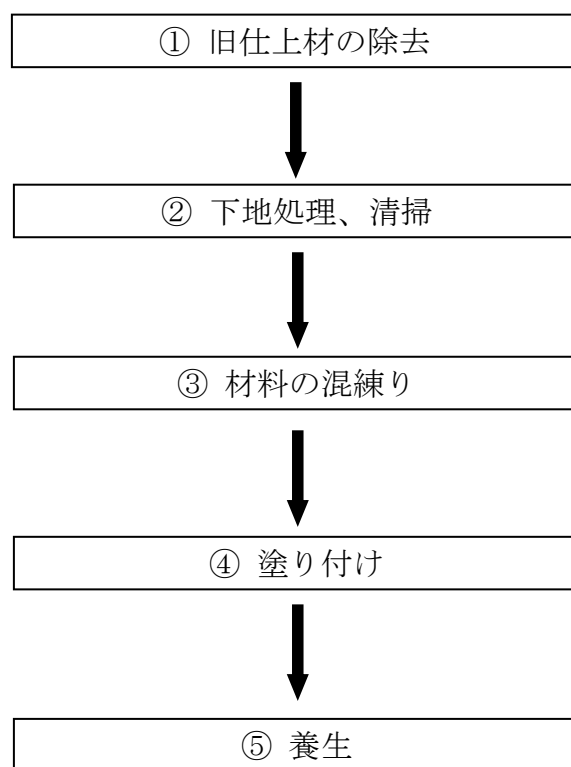


図 2. 壁面補修の施工フロー

3. 1 旧仕上材の除去

旧仕上材はスクレーパーやディスクサンダーなどにより除去する。旧仕上材の劣化の程度が大きい場合は全面除去し、劣化の程度が部分的な場合は劣化部分を除去する。

3. 2 下地処理、清掃

施工面に汚れや脂分が付着している場合は、ワイヤブラシや溶剤で除去し健全な下地とする。また、吸水が激しい下地へ施工する場合は、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布する。

3 mm以上の不陸がある場合は、事前に付け送りをを行う。その場合、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布（標準塗布量 0.15kg/m²）する。次工程までの工程間間隔は、塗布した NP シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

付け送りは、厚さに応じて表 2 に示す下地調整材を使用することを推奨する。

表 2. 下地調整材一覧

推奨製品	塗り厚
NP ステージ、NP アツヌリ	0～15 mm(ステージ)、0.5～20 mm(アツヌリ)
NP ハイパー20、NP ハイパー30	1～5 mm(ハイパ [°] - 20)、1～15 mm(ハイパ [°] - 30)
NP ハイパーⅡ、NP Z アップⅡ	5～10 mm
NP メガモルハード	5～15 mm (欠損部が 0.3 m ² 以下の場合は 5～60 mm)
NP フィニッシュフロア F	3～15 mm

3. 3 材料の混練り

所定の水を容器に入れ、NP カチオンを徐々に加えながらハンドミキサー（回転数 1,000rpm 以上）等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜる。尚、強度低下の原因となるので、規定水量（こて仕様の場合は 5.4～5.8 l/袋、ローラー・刷毛仕様の場合は 8.0 l/袋）を厳守する。

3. 4 塗り付け

コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付ける。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練足しおよび水を加えての練り戻しは行わない。

※NP カチオンの上から溶剤系シーラー、溶剤系仕上材を施工する場合は、必ずこて仕様で使用し、最低塗厚 2 mmを確保する。

※旧仕上材がタイルの場合は、NP カチオンを目地部にコテ圧をかけて擦り込むように充填し、直後に NP カチオンを全面に塗布する。

また、その上から新しくタイルを張る場合は(タイルオンタイル)、NP カチオンの仕上げは適度に鰻波が残る程度か木ゴテ押えとし、金ゴテ押えのような平滑な仕上げは避ける。

3. 5 養生

施工後は、強風や強い雨・雪、直射日光にさらされないように、シート養生等を万全に行う。通風や直射日光等により塗り付け面の乾燥が激しい場合は、塗り付け翌日以降に散水養生を行う。

※仕上材までの養生期間は通常 5 日、冬期 10 日以上とする。

4. 屋上防水下地調整の施工方法

屋上の防水材（塗膜防水やアスファルト防水等）を改修する際に適用する施工フローを図3に示す。

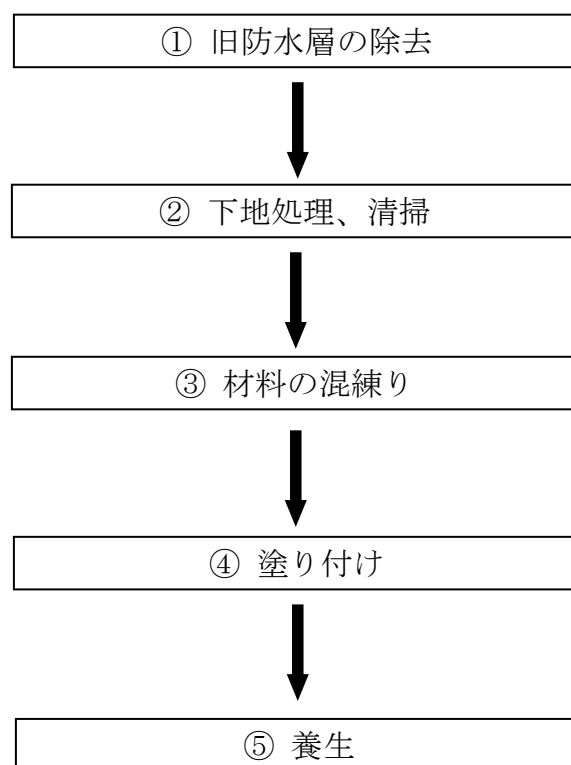


図 3. 既存防水層改修の施工フロー

4. 1 旧防水層の除去

既存の防水層は、完全に除去する。防水層のプライマーも出来る限り除去する。また、断熱防水工法の場合は、断熱材も除去する。

4. 2 下地処理、清掃

施工面に汚れや脂分が付着している場合は、ワイヤブラシや溶剤で除去し健全な下地とする。また、吸水が激しい下地へ施工する場合は、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布する。

3 mm以上の不陸がある場合は、事前に付け送りを行う。その場合、NP シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等でムラなく塗布（標準塗布量 0.15kg/m²）する。次工程までの工程間間隔は、塗布した NP シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

付け送りは、厚さに応じて表 3 に示す下地調整材を使用することを推奨する。

表 3. 下地調整材一覧

推奨製品	塗り厚
NP ステージ、NP アツヌリ	0～15 mm(ステージ)、0.5～20 mm(アツヌリ)
NP ハイパー20、NP ハイパー30	1～5 mm(ハイパ [°] - 20)、1～15 mm(ハイパ [°] - 30)
NP ハイパーII、NP Z アップII	5～10 mm
NP メガモルハード	5～15 mm (欠損部が 0.3 m ² 以下の場合は 5～60 mm)
NP フィニッシュフロア F	3～15 mm

4. 3 材料の混練り

所定の水を容器に入れ、NP カチオンを徐々に加えながらハンドミキサー（回転数 1,000rpm 以上）等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜる。尚、強度低下の原因となるので、規定水量（こて仕様の場合は 5.4～5.8 l/袋、ローラー・刷毛仕様の場合は 8.0 l/袋）を厳守する。

4. 4 塗り付け

コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付ける。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練足しおよび水を加えての練り戻しは行わない。

※NP カチオンの上から溶剤系シーラー、溶剤系仕上材を施工する場合は、必ずこて仕様で使用し、最低塗厚 2 mmを確保する。

4. 5 養生

施工後は、強風や強い雨・雪、直射日光にさらされないように、シート養生等を万全に行う。通風や直射日光等により塗り付け面の乾燥が激しい場合は、塗り付け翌日以降に散水養生を行う。

※仕上材までの養生期間は通常 5 日、冬期 10 日以上とする。

施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合には、施工を行わない。
- 吸水の激しい下地へ施工する場合に使用する吸水調整材は、必ず NP シーラックを使用し、他の吸水調整材の使用は避ける。
- NP カチオンは既調合品であり、現場にて砂、セメントなど指定材料以外の混入は絶対に避ける。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から 6 ヶ月以上のものは使用しない。



日本プラスター株式会社

| 本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
| TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

| 東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
| TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048

| 西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
| TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032